

教育広報

第42号

平成17年7月

いるま

題字：教育長 石田 宣雄
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：入間市教育委員会学校教育課
電話04-2964-1111(内4145)



『プール掃除』

金子小学校 六年

松橋 朋子 まつはしともこ

がんばるぞ

みんないっせいに走り出した

デッキブラシやタワシで

ゴシゴシゴシ

あ、先生がホースから

水を流してきた

こけに、水がつくと

とつてもすべる

ゴシゴシゴシゴシゴシ...

だんだんきれいになってきた

どけどけどけ

男子がかべをけて

スライディングをしてきた

すべる男子をよけながら

ゴシゴシゴシ

先生が

「水をかけるぞ。」

「言えば大きわぎ

「キャア、冷たい。」

ホースやバケツでどんどん流す

ようし、最後までがんばるぞ



これからの特別支援教育

「特殊教育」から「特別支援教育」への転換

従来、障害のある子どもたちの教育は、盲・ろう・養護学校や特殊学級、通級指導教室を中心として、障害の種類や程度に応じて特別の場で指導が行われてきました。

しかし、近年のノーマライゼーションの進展や障害の重なり・重複化及び多様化と、通常の学級にも特別な教育的ニーズのある子どもたちが多数いるということが認識されたことから、社会参加と自立という目的を実現するために、従来の枠組みを超えて、障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じた教育的支援を行うという考え方への転換が求められています。

この「特別支援教育」を文部科学省は次のように定義しています。

特別支援教育とは従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症を含めて、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習の困難さを改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。

埼玉県の動向

埼玉県では、平成十六年度からノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進を重点課題の一つとして位置づけ、「支援籍」などの新たな制度作りに向けた研究を行っています。

また、平成十七年度より各小・中学校における特別な教育的支援の必要な児童生徒に

対応する校内体制を整備していきます。

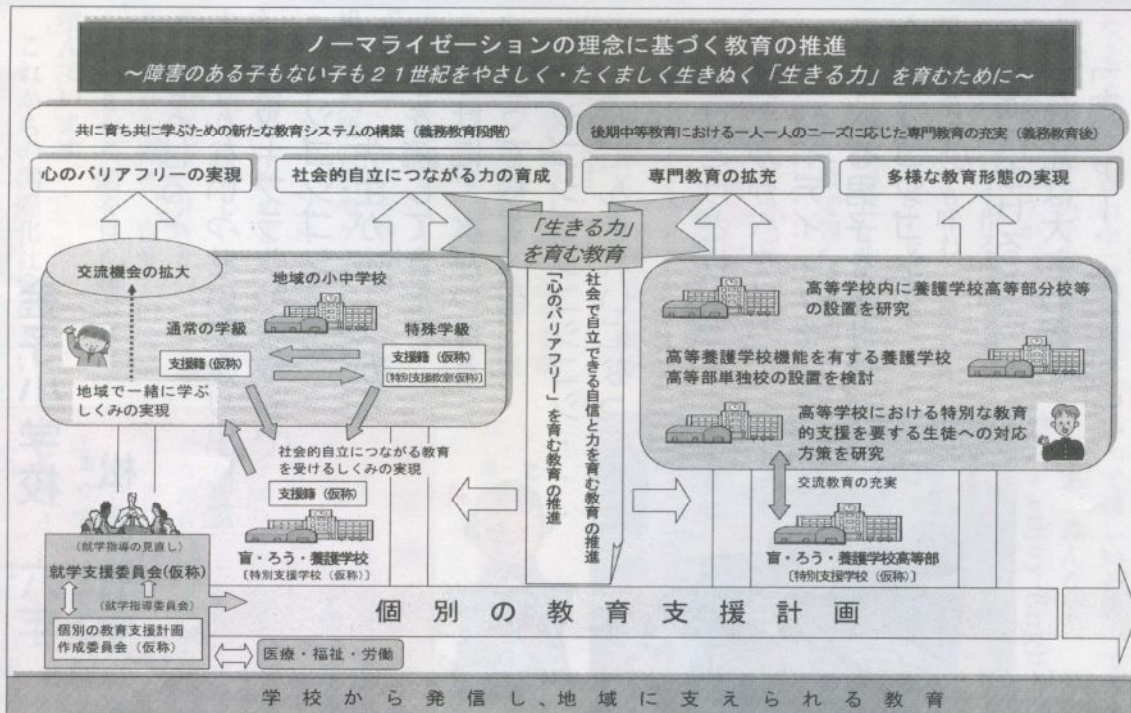
一つめは校内委員会の設置です。これは、各小・中学校におけるLD・ADHD、高機能自閉症等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒への適切な指導、支援等を検討する委員会です。

二つめは、特別支援教育コーディネーターの指名です。コーディネーターは関係機関と連絡調整したり、校内委員会等で中心的な役割を担ったります。

入間市の取り組み

入間市でも、今年度より、各小・中学校に校内委員会が設置され、特別支援教育コーディネーターが指名されています。

また、特別支援教育に対する理解・推進のために、教職員・特別支援教育コーディネーター等を対象とした各種研修会を開催する予定です。



イラストについては、©HKT 画「スクールカット集」から一部使用しました。

<ノーマライゼーションの理念に基づく教育推進イメージ（埼玉県）>

学校版環境ISO「エコスクール人間」ってなあに？

昨年度から市内小・中学校で学校環境ISO「エコスクール人間」の取り組みが開始されました。

ISO14001とは

ISOとは、国際標準化機構 (International Organization for Standardization) の略称です。スイスにある国際的な機関で、ものやサービスなどの品質が各国で共通になるように取り決めを行っています。環境を良くしていくための仕組み (環境マネジメントシステム) についても共通化 (標準化) して14001にその内容を取り決め、記述しています。従って、14001とは、環境マネジメントシステムの国際規格といえます。

昨年度の取り組みから

入間市では、一昨年十二月に自治体として正式に取得しました。このことを受けて、市内の学校においても環境マ

ネジメントシステムに基づいて取り組みを始めました。「計画」「実行」「点検」「見直し」の四つのサイクルを基本として目標を立てて行います。そして、全職員・児童生徒が身近な取り組みを行うことで、地球温暖化等に配慮した環境に優しい学校づくりをしていくことをねらいとしています。

初めての試みであることから基本事項として、①環境教育の学習 ②電気の節約

③水の節約の三点を基本に各校の実態に合わせて取り組みをスタートさせました。具体的には照明のこまめな消灯、清掃時のバケツ使用による節水、ゴミの分別、給食の残菜を減らす工夫などが上げられます。

日々の場面で児童・生徒に指導し、教師自身も率先して



最先端のゴミ処理施設の紹介や市内のゴミの量及び処理にかかる経費などが掲載されている副読本

取り組みだことがよい結果をもたらしたと考えています。

小学校では、ピクトプの観察、茶畑の清掃、リサイクル活動など各校の特色が取り組みに反映されているところもあります。

中学校では、生徒会を中心に活動しています。また、目標を明確にし自己評価を数値化して結果を評価している学校もあります。

平成16年度 入間市立金子小学校 環境教育全体計画

学校教育目標 ・かしこく ・ねばりよく ・こころゆたかな子

環境教育で目指す児童像
1.身近な環境問題を理解し関心を持つ子 2.動物を愛し生命を尊重する子
3.環境問題を主体的に捉え、その改善に向けて行動できる子 4.地球環境の問題に関心を持つ子



向原中学校の取り組み

○教職員 (平均)

	6月	10月	12月	2月
1 環境教育の学習。	2.7	2.6	2.6	
2 照明をこまめに点灯・消灯	3.9	4.0	4.1	
3 紙を大切に利用します。	3.4	3.4	3.5	
4 水を出し放しにしません。	4.0	4.0	4.0	
5 バケツを利用し清掃します。	3.0	3.2	3.3	
6 学校の美化活動を積極的に行う。	3.5	3.5	3.7	
7 ゴミの分別をします。	3.9	4.0	4.1	
8 使用済みの印刷紙の裏面を利用。	3.4	3.8	4.0	
9 通学路清掃やプルタブ収集を行う。	3.0	3.4	3.6	
10 植物を大切にします。	3.8	3.7	3.7	

○生徒 (全校生徒平均)

	6月	10月	12月	2月
1 環境教育の学習。	3.4	3.1	3.0	3.0
2 照明をこまめに点灯・消灯	3.0	3.0	3.2	3.5
3 紙を大切に利用します。	3.1	3.4	3.5	3.5
4 水を出し放しにしません。	3.7	3.7	3.9	3.9
5 バケツを利用し清掃します。	3.4	3.5	3.1	3.1
6 学校の美化活動を積極的に行う。	3.3	3.2	3.3	3.3
7 ゴミの分別をします。	3.6	3.5	3.2	3.2
8 使用済みの印刷紙の裏面を利用。	3.6	3.6	3.4	3.4
9 通学路清掃やプルタブ収集を行う。	2.8	2.9	2.9	2.9
10 植物を大切にします。	3.3	3.0	3.0	3.0

◆全校で取り組んでいます。

5段階による自己評価

(5;よくできている、1;できていない)

《向原中学校の取り組みから》
教職員も生徒も意識が高まり、意識の面では効果が上がっていると
言えます。
生徒の意識は1学期より高まってきました。



ちらす

校★

学校★

宮寺小学校

宮寺小学校



所在地 / 入間市宮寺594-1

児童数 / 294人 (12クラス)

教職員数 / 30人

学校教育目標 よく考える子
心ゆたかな子
体をきたえる子

愛と自然に囲まれた 歴史ある宮寺小学校



宮寺小学校長 後藤 八郎

朝、校舎内に「おはようござ
います。」という元気な声が響
きます。宮寺小学校の一日は、
子どもたちの元気なあいさつで
始まります。
毎週水曜日の朝の「ふれあい
タイム」をはじめ、天気の良い
休み時間には、友だちといっし
よに校庭で元気よく遊ぶ子ども
たちの姿が見られます。
社会科や総合的な学習の時間
では、地域の方々にお世話にな
る機会がたくさんあります。子
どもたちが質問をしたり、お礼
の言葉を述べたりする元気のよ
い声が聞こえてきます。
宮小っ子の元気な姿が、学校
生活の様々な場面で見られます。

元気な宮小っ子

地域のよさを生かす

宮寺地区は自然、歴史、文
化、産業などの面で、すばら
しいところがたくさんありま
す。



こんなにお茶が摘めたよ

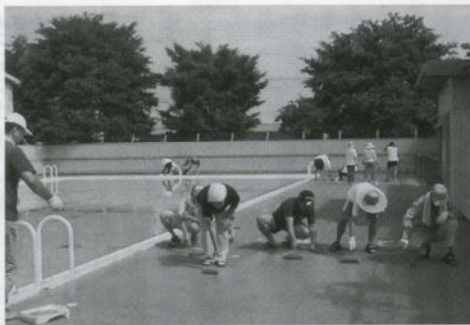
このよさを子どもたちの学
習に生かしています。狭山丘
陵の自然を活用した学習、西
久保湿地での稲づくり(二十
坪の田を借りて、田おこしか
ら収穫、脱穀まで行っていま
す)、歴史あるお寺や神社の
調べ学習、昔から地域に伝わ
る食べ物づくり、地域の産業
である茶業を生かした茶摘み
体験や茶工場の見学など、内
容は様々です。
地域のよさにふれることで、
子どもたちの中に地域を愛す
る心が育つことを期待しなが
ら、学習を進めています。

特色あるPTA活動

宮寺小学校の特色あるPT
A活動を紹介します。

一つ目はPTA・職員合同
の学校美化活動です。ここ数
年は夏休みにペンキ塗りを実
施しています。校庭の遊具、
教室や廊下の壁面、プールサ
イドなど、見違える程きれい
になります。

二つ目は保護者の方々が年
間を通して実施している登校
指導です。交通量の多い交差
点などに雨の日も雪の日も交
代で立ち、子どもたちが安全
に登校できるように指導して
くださっています。



炎天下でのペンキ塗り

学校のため、子どもたちの
ための熱心な活動に頭が下が
ります。



自然がいっぱい宮寺小学校

宮寺小学校のいいところは、
自然がたくさんあるところで
す。すぐ近くに狭山丘陵があり、
理科の勉強などに行きます。ま
た、総合の時間には西久保湿地
に行つて、米づくりをしたり、
草花や虫、鳥などの自然観察を
したりします。

ほくたち宮寺小学校の児童
は、自然が身近にあつてたくさ
んふれあえるので、とても幸せ
だなどと思えます。これからも宮
寺小とその周りの自然を大切に
守り、宮寺の豊かな自然をみん
なに知ってもらいたいです。

(児童代表 岩田周士)



大きな稲に育つといいな

学校

今回の学校は

黒板やチョーク。教科書やノート。学習活動。
そして、友だちがいて、先生もいる。
その時間の蓄積が、学校を学び舎にしていきます。



藤沢小学校長 関根 孝男



藤沢小には、子どもたちを包み込む美しい自然の営みが用意されています。

そして、今年の入学式にも色とりどりの花が新入生を温かく迎えました。

花は校内の通路で心地好い香りを漂わせています。

児童を中心に花壇の土をおこし、種蒔きや苗の植え付け、除草等の手入れをし、花を咲かせました。丹精込めて世話をした

プローチ。四季を通して、季節を彩る草花が、登校する子どもたちを迎え、包み込んでいます。

美しい自然の営みが、子どもたちを包み込みます。

藤沢小学校



所在地 / 入間市上藤沢384

児童数 / 672人 (21クラス)

教職員数 / 41人

学校教育目標 **かしこく
やさしく
たくましく**

地道な学習活動を大切にしながら教育活動を進めています。

あふれるほど多様な交流が、心を豊かに広げていきます。

鉛筆のすべる音、きれいな歌声、元気な返事。どの子も真剣に授業に取り組んでいます。

職員も、子どもたちの力を伸ばし、学校目標達成のために全力を傾注しています。

そのために、毎日毎日の教育活動を大切にしています。着実な理解。大切にされる体験活動。考える学習活動。そのような確

かで具体的な教育活動を積み重ねて、子ども達の健やかな成長を願っています。

藤沢小学校は、学習するところ。この基本を揺るがすことなく、藤沢小学校は、そのための努力を続けています。



真剣な授業風景

「お早うございます。」「こんにちは。」「さようなら。」あたりまえのような挨拶が、学校の中から沢山聞こえるようになりました。

藤沢小学校では、元気な挨拶をする姿が、自然なまですに付いていきます。入学式では、六年生が新入生の手を引いて入場します。縦割り班で給食を食べ、休み時間を過ごしています。児童会活動も、異年齢で交流活動をします。多様な人間関係を結ぶ、学年を超えた交流が、計画的に進められていきます。

通学先の先頭に立つ班長は、いつも一年生の速度に。休み時間の校庭は、子どもたちの姿でいっぱい。人への信頼、社会の中で生きることの安心が藤沢小学校では育まれています。



新1年生といっしょに

学校自慢

みんな大好きな学校

ぼくたちの藤沢小学校は入間市の中では、最も歴史のある学校です。小学校がつくられてから今では百三十年以上も経っています。

また、一年生から六年生まで学年の木があります。

一年生は「梅」

二年生は「夏ミカン」

「ブドウ」

三年生は「ユスラウメ」

四年生は「サクラノボ」

「ブルーベリー」

五年生は「西洋ミザクラ」

六年生は「ピワ」です。

入学式の時、満開になる桜もきれいです。これからも、みんなが大好きな藤沢小学校であってほしいと思います。



藤の木の下で

賢く・優しく・逞しい 生徒の育成

豊岡中学校



所在地 / 入間市向陽台2-1-20

生徒数 / 437人 (16クラス)

教職員数 / 42人

学校教育目標

- ◎賢く
- ◎優しく
- ◎逞しく



豊岡中学校長 村野 志朗



本校は、開校五十九年を迎えました。生徒数四百三十七名、学級数十六（普通十二特殊四）学級、教職員四十二名で構成されています。

学校は、「心豊かな生徒を育成する場である」という考えから、静かできれいな環境の中で、「賢く・優しく・逞しい」生徒の育成のための教育活動を行っています。

平成十七年度・十八年度は、「基礎・基本の定着を図る指導と評価の工夫」を課題に学校全体で研究に取り組んでいます。生きる力の原点は「学力」にあると考えて、教育活動をしている学校です。

湯源の教育で

基礎学力の定着



湯源の心で指導

「基礎学力の定着」を学校経営の重点に置き、今年で五年目を迎えました。「湯源の教育」とは、温泉で下から湧き出る熱湯は汲めども汲めども尽きないことから、この湧き出る熱湯のように、これでもかこれでもかと、あの手この手で努力して子どもを育てることです。この心は本校職員の教師魂として代々引き継がれ、全職員日々研修に励み、指導の工夫・改善に取り組んでいます。具体的には「読み」「書き」「算」の観点を中心とした繰り返し指導、英語・数学における一クラス15人程度の少人数指導、ゲストティーチャーを積極的に導入した「本物にふれる」指導などです。生徒は「質問しやすい」「最後まで教えてくれる。」など目を輝かせています。

立志式

生き方の確立

本校では「志をもって自らを鍛える生徒の育成」を目指して、様々な取り組みを展開しています。

三年生では「ようこそ先輩」と題した進路学習を行っています。人生経験豊かな先輩方の知恵や経験にふれることは大きな意義があります。今までも入間市長をはじめ多くの諸先輩方に来ていただきました。



2年生立志式

昨年度より二年生の進路学習の一環として「立志式」を始めました。自分を見つめ、将来に向けて目標（志）をもつ絶好の機会となっています。今年さらには「志を立てるわが子へ」と題して、保護者から手紙を書いていただく予定です。「自分が大切にされている」という自尊感情が、やがて「他人を大切にできる心」（思いやり）に広がっていくと考えています。

大きな鏡

きれいなトイレ



学校は心豊かな人間を育てる場であり、そのためには、学校は静かできれいな場であればならないと考えています。学校のトイレはその学校の文化です。「暗い・臭い・汚い」と言われているトイレの清掃に特に力を入れ、教師・生徒一丸となって取り組んでいます。一昨年の夏休みにはトイレ会社の方をお呼びして、全職員で研修を行いました。

蛍光灯を増設したり、PTA・保護者の協力による万燈祭の収益で大きな鏡を設置したり、環境の整備も図りました。「明るくきれいなトイレは気持ちいい。」との声。大きな鏡・きれいなトイレは豊中学生の誇りです。



トイレ清掃にはげむ1年生

不審者から子どもたちを守るために

最近、入間市でも不審者情報や不審者による子どもへの被害が少なくありません。子どもたちが安心安全に生活できるように入間市としても様々な取り組みをしてきました。今回は、その取り組みの概要について紹介します。

各校における取り組み

① マニュアル作成と不審者侵入時の対応研修

各小・中学校では、不審者の侵入に備え、不審者対応マニュアルを作成しています。そして不審者への教職員の対応や児童・生徒の避難等について共通理解を図っています。

また、警察署の協力を得て、実際の場面を想定しながらの教職員の研修もしてきました。

市の取り組み

① 不審者から子どもを守る防犯研修の実施

今年の三月十日、東町小学校を会場に市内の小・中学校教職員を対象に不審者から子どもを守る防犯研修会を実施しました。



した。

また、ネットランチチャアの用法の研修も行われました。

② 児童・生徒に防犯笛・ブザーの配布

児童・生徒の登下校時や帰宅後の安全を考え、市内の小学一年生から四年生に防犯笛、五・六年生と全中学生に防犯ブザー



を配布しました。不審者はいつおそつてくるかわかりません。いつも身につけていてください。

③ ネットランチチャアの配備

動きを止める有効な手段の一つです。市内全小・中学校にネットランチチャアを一丁ずつ配備しました。

④ 小・中学校玄関に警察官立寄所の表示

不審者の侵入を防ぐため警察官が、各小・中学校の敷地内を巡回しています。玄関には「警察官立寄所」の表示をしました。



⑤ 防犯パトロールの実施

市役所の自治文化課と学校教育課では、防犯パトロールを実施しています。児童・生徒が下校する時間帯に、市の広報車でパトロールをして子どもの安全を守っています。

この記事参考に、ぜひご家庭でも、不審者への危機意識を高め、その対応について話題にしていたくようお願いいたします。

心の専門家スクールカウンセラー(SCC)

一 スクールカウンセラー(SCC)とは

文部科学省・埼玉県の取り組みにより公立の全中学校に「心の専門家」をSCCとして配置することになりました。SCCは臨床心理士等の資格を持ち専門的立場でいじめや不登校等の問題解決に取り組んでいます。

二 SCCの仕事は…

東町中SCC 関谷直子

SCCの主な仕事としてカウンセリングが挙げられます。カウンセリングとは「悩みがあるけれど、どうしたらよいかかわからない」「自分ひとり(家族)だけではどうにもならない」という相談者に対して、一緒に考えていくことをいいます。

三 気軽に相談を

今年度から左記のように市内中学校にSCCが配置されました。児童・生徒本人はもちろんのこと、小・中学生の保護者の

方々もお子様の心理的成長や発達、学校生活を送る上で気になることがありましたら、遠慮なくご相談ください。

最近カーナビゲーションという道案内の機械がありますが、カウンセリングは心理面で道に迷ってしまった人に対して「こういう道がありますよ」と目的

地までナビゲートすることです。また、予防的取り組みもSCC

の大切な仕事です。思春期は心や体が著しく成長するため、心のバランスが不安定になりやすい時期です。そんな時期の児童・生徒や保護者に対して「こういうときは、こうしたらよい」という対処法を伝えることにより、問題を小さくしたり未然に防いだりすることができます。

私たちSCCは、児童・生徒がよりよい学校生活を送ったり、豊かな人生を送ったりすることができるようお手伝いをしていきます。

今年度から左記のように市内中学校にSCCが配置されました。児童・生徒本人はもちろんのこと、小・中学生の保護者の方々もお子様の心理的成長や発達、学校生活を送る上で気になることがありましたら、遠慮なくご相談ください。

〈月三日配置校〉豊岡中、金子中、向原中、上藤沢中、東町中
〈月一日配置校〉武蔵中、藤沢中、西武中、黒須中、野田中
それぞれ勤務曜日が異なりますので、直接中学校へお問い合わせください。

ぐんまにゆいす

「埼玉県障害・難病児童生徒文化の集い」

に東町中学生が参加!!

東町中学校

「総合的な学習の時間」に埼玉県立狭山養護学校と交流を深めている東町中学校の二年生が、今回、狭山市民会館で行われた「埼玉県障害・難病児童生徒文化の集い」に参加しました。



心の交流ができたステージ

ステージでは、狭山養護学校の生徒と歌、ダンス、合奏などをともに楽しみながら発表し、双方の生徒にとって、すばらしい交流・経験となりました。

卒業制作展示会「ロード」
一人一人の世界が
今一つに

藤沢北小学校

「六年間の思い出」 T男
帽子と筆箱をどこに置いたら一番いいか考えた。六年間ずっと使ってきたので、「ありがとう」の気持ちで飾った。本当は名札も作りたかったー感想ー
この展示会は「みる」という、陶芸家、榮一男先生の道徳の授業から始まった。



アミーゴで どれも輝いた!

その後、焼き物を教えていただきました。榮先生は自分の歩んできた道、心でも物をみるこ

と、そして夢を追い求め、最後まで頑張ることを熱く語ってくれました。

子供たちの心の中に一つの新しい世界ができたようです。

「藁苞納豆」作り
にチャレンジ

藤沢南小学校

二月、五年生総合学習。昨年、収穫された米や藁を利用して、五平餅作りと藁を使つての納豆作りチャレンジしました。

当日は、前日から水に浸しておいた大豆を蒸し器で蒸すことから始まり、外では火をおこして湯を沸かししたり、藁苞作りをしたりでワイワイガヤガヤ。大豆も藁も冷めないうちに包むことが一番大変でした。

次の日、給食の時間に五年生全員で味わってみました。



初めての納豆作り

「いつも食べている納豆と少しちがう。」という感想が多かったようです。藁の中に納豆菌がいることを何人の子供たちが知っていたでしょうか。

来年は、大豆を作る体験を通して、家族の人にも味わってもらえる納豆作りをめざす予定です。

*藁苞(わらづと・中に物を入れて藁で包んだもの。)

Let's enjoy English
世界の人と仲良しになろう

豊岡小学校

「ハロー! ナイストゥ・ミーチユー!」子供たちの元気な挨拶が響いてきます。

豊岡小学校では市の研究委嘱を受けて、英語活動の授業に取り組んでいます。授業は、担任の先生と中学のALTの先生、ボランティアの学生がチームを組み、英語の歌やゲーム、コミュニケーションスキルを中心に体験的に進めます。子どもたちは明るく楽しいALTの先生が大好きで、ネイティブな発音を耳から聞き、自分の口で話し、生きた英語を目を輝かせて学んでいます。

これからの国際化社会において、異文化コミュニケーションの能力は必要不可欠といえるで

しょう。この英語活動の授業をきっかけに、国際理解を深めていってほしいと願っています。さあ、みんな

Let's enjoy English!



学級担任、AET二一ナさん(西武中)、東京家政大学生との英語活動



編集後記

真夏の太陽が目眩しい季節を迎え、一学期のまとめの段階に入りました。

今回の教育広報では、「特別支援教育」という、今一番重要な教育課題を特集し、保護者の皆様に紹介いたします。

なお、教育広報「いるま」は、予算の関係で年間二回の発行とさせていただきます。よろしくご理解をお願いいたします。